

A-PARTNERS

足立区 NPO 情報紙
つくる。つながる。ひろがる。

No.38
2022年6月15日発行

編集・発行 2022年6月15日 足立区 NPO 活動支援センター
〒123-0851 足立区梅田 7-13-1 (梅田図書館1F) TEL:03-3840-2331 FAX:03-3840-2333 担当所轄: 足立区協働・協創推進課 協働・協創推進課担当 TEL:03-3880-5020 足立区

生きた会話

届けるのは



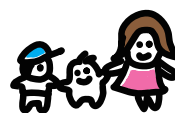
資料提供 (ぬいぐるみ)
株式会社ナカジャコーポレーション

特集

デジタル技術とNPO
すべての人に「世界を旅する」バーチャル体験を
特定非営利活動法人 バーチャルフォトウォーク

トピック

- 聞きたいあなただけのストーリー RUN JO KAI(ラン・ジョ・カイ)
- センターピックアップ Coder Dojo 足立(コーダー道場 足立)
- 頼って!おいでよ!子育ておまかせ処
 - スマイルリンク
 - NPO法人ピースプロジェクト
- コラム スタッフのつぶやき



子どもの居場所

子育て支援

安心して暮らせる環境や仕組みづくり

頼って!おいでよ! 子育ておまかせ処



スマイルリンク

主な活動場所: 足立区・北区
お問い合わせ: smile.link2020@gmail.com

遠くの親戚より近くの他人!みんなで寄り添いあいながら生きていきたいと思います。

活動内容

宅配型フードパントリー「ごはん De スマイル」・生理の貧困ナプキン無償設置活動・多世代交流&プログラミングに遊びながらふれてみよう!「ロボチャレ De スマイル」

メッセージ

私たちの活動を通して「日々の暮らしを前向きに、地域との繋がりを感じていただきたい」との想いで立ち上げました。

宅配型フードパントリー「ごはん De スマイル」



生理の貧困ナプキン無償設置

NPO法人 ピースプロジェクト

主な活動場所: ピース食堂(博多もつ鍋「げっけん」足立区西新井 3-3-10)
お問い合わせ: webmaster_pp@peace-project.net

誰でも来れる体験イベントもあるピース食堂

活動内容

2021年より、西新井にて月に1~2回開催しているこども食堂。中学生までのお子様は無料(高校生以上は参加費として300円)。キックボクシングやボクシングの体験イベント、マジックショーなど毎回イベントを併設してどなたでも来やすい食堂として活動しています。

メッセージ

スタートから1年経ち食数も100食までに。次第に地元の方々へも認知されてきました。「子どもたちを笑顔にする」食事の提供をこれからも続けていきます。

ボランティアメンバーとの記念撮影
※撮影時のみマスクを外しています。



ピース食堂公式 LINE アカウントお友達募集!



「くわしく聞きたい!」
「自分も何かが始めたい!」
と思ったら...

地域にどんな活動があるのかな?
私にも何かできるかな?
もっといろいろ知りたい!!
と思った方は、
足立区NPO活動支援センターに
アクセスしましょう。

あだち
協働
パートナー
サイト

Twitter

Facebook



〒123-0851
東京都足立区梅田七丁目13番1号
TEL:03-3840-2331
adachi-npo-center@machikatsu.co.jp



スタッフのつぶやき

「ボランティア」と聞いてみなさんはどんなイメージをお持ちでしょうか。

ボランティアの語源はラテン語の voluntas (自由意志) です。ボランティアというと、「無償の奉仕活動」とイメージする方がいるかもしれませんが、本来は「本人の意思、自発性」が中核的概念であり、【言われなくてもする】【納得しなかったらしない】活動なので、「授業の一環だから」「会社に言われたから」というような活動は厳密にはボランティアとは呼びません。

また「無償」というところにネガティブな印象を持ちやすいかもしれませんが、無償であることで、【対等な関係性】で活動でき、【金銭的尺度での価値づけをされない】という重要な意味もあります。

「社会貢献しなくちゃ!」と気負わずに、自分にできること、興味があることから参加し、やりたくないと思ったらやめて、また違うものに参加してもいいのです。ボランティアに興味のある方は、NPO 活動支援センターやボランティアセンターにご相談ください。

(センター相談員 野際 里枝)

特集 デジタル技術とNPO活動

NPO活動にも、コミュニケーションツールとしてのオンライン会議や SNS 等のデジタル技術の活用が広がっています。

今号では、デジタル技術を活用して「人と人をつなげる活動」を行っている NPO 団体に、活動への想いをお伺いしました。

どこにいても世界中を旅できる!? 双方向コミュニケーションで、心の自由を楽しむ

特定非営利活動法人 バーチャルフォトウォーク

バーチャルフォトウォークは、病気や障がいのある方をはじめ、その介護者やコロナ禍で思うように外出や旅行ができない方々に「世界を旅する」バーチャル体験を提供している団体です。写真家たちが ZOOM やスマートフォンを使って美しい風景などをライブ配信（ライブストリーム）しています。

2012年にカナダ在住で写真家のジョン・パテリルさんが、寝たきりの方に景色をライブ中継したのをきっかけに、バーチャルフォトウォークの活動を開始されました。2016年からは永堀典子さんがバーチャルフォトウォークジャパンの活動を開始。そのお二人が代表となり「一人も取りこぼさず笑顔に！」をモットーに2021年5月に団体を発足しました。

お母様の介護が活動の原点

パテリルさんは92歳のお母様を自身で介護した経験から、介護を必要とする人とその家族が、思うように外出や旅行ができないことで抱えるストレスを解消するため、写真家としての専門性を生かしバーチャルフォトウォーク活動始められたそうです。

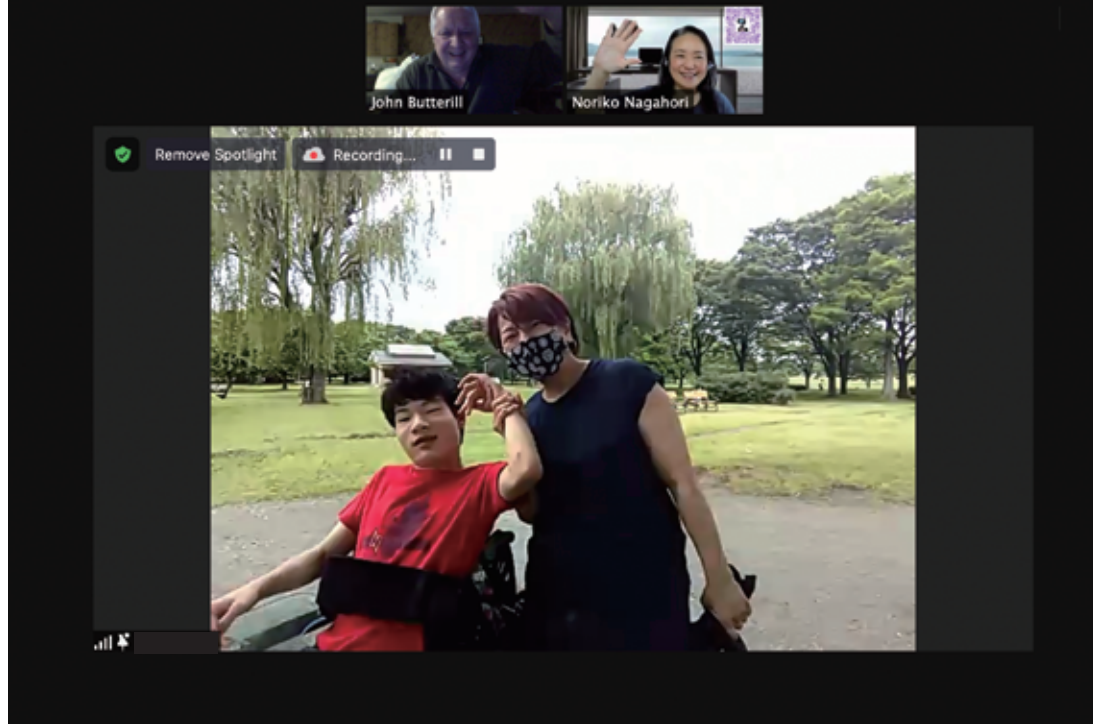
一方、フリーで翻訳の仕事をしている永堀さんは、以前受けた翻訳の試験でバーチャルフォトウォークのビデオに出会いました。ご自身のお仕事とは縁がなかったにもかかわらず、パテリルさんの活動がどうしても気になり、コンタクトをとったことで日本での活動に発展していきました。

双方向の生きたコミュニケーション

「寝たきりになって、潮騒の音が聞けるとは思わ

なかった」と感激する方や、飛行機に乗れない方が「外国旅行の喜びを味わえた」などの感想が多数寄せられています。また、声をあまり出せない方や手が使えない方もいますが、小さな声で気持ちを伝えてくれたり、後頭部でPCのキーボードを打って感情を表現してくれるなど、プレゼンター（配信者）との間に生きた会話があるのが特徴です。

そこで重要なのがプレゼンターの存在。現在、青少年ボランティアの育成に力をいれており、10代のプレゼンターも活躍中です。



日本でも10代のプレゼンターが活躍しています。

コロナ禍の活動

老若男女、みんなで楽しく走る RUN JOKAI

RUN JOKAIは、今年で設立32年目となるランニングクラブです。淵江高校陸上部OBの6名で足立駅伝出場を目指し作ったチームから始まり、現在、会員は70名ほど。小学生から最年長は76歳と幅広い年齢の方が集まり活動しています。

コロナ禍ではZoomと掲示板を使って

コロナ禍には「エネルギーカフェ」と題してZoomで毎月1、2回、お互いの近況などを話す場を設けていました。

また、10年前からオンライン掲示板を活用しており、コロナ禍には、各自で走っ

聞きたい、あなただけのストーリー

た距離を報告し合う「チャレンジランニング」を企画。ランキングや設定された距離どおりに完走した人に贈られるピタリ賞を設けるなどの、遊び要素も取り入れて盛り上がっているそうです。オンラインでの交流は、海外にいる会員も参加することができ、集まれなくても各々が楽しく走り、情報を共有し合うことで活動が継続しています。

掲示板での配慮も世代間をつなぐかぎに

「文字だけのやり取りは、誤解をしてしまうことが多いので、掲示板には、【見た人が楽しめる情報】や【連絡】だけにしています。」と、会長の高橋さん。掲示板の中で注意したくなるようなことがあれば、直接会って話すか、高橋さんに相談をしてもらうようにしているとのこと。

32年前、心身不調だった高橋さんが、仲間と楽しく走ることで健康に回復していった経験から「楽しく走る」に強い想いをもって活動してこられました。「小学生の時に一緒に走っていた子どもたちが大人になってまた自分の意思で会に参加してくれるのがとても嬉しい。会長の引継ぎ、会のリスタートに向けて動いている」とのこと。「楽しく走る」に心を動かされた次世代が活動を繋いでいっているようです。



活動から広がる可能性

足立区は高齢者と外国人居住者が多く、65歳以上の高齢者は20万人に迫り、外国人居住者は3万人にも及びます。そこで課題になってくるのが災害時の情報共有です。「震災時、電話は使用できなくてもデータ通信は可能だった事例があるため、私たちが得意とするZoomを使ったオンラインでの情報提供も可能になるのではないかと永堀さん。災害時にデジタル技術を活用することで、高齢者への情報提供はもちろん、外国の方には通訳の支援、被災者には心のケアなど、「離れていてもできる支援、離れているからこそできる」支援が可能になってきました。パテリルさんや永堀さんのように、培ってきた経験や得意分野をデジタル技術とかけ合わせれば、支援やサポートは無限の可能性を秘めているのだと感じました。

取材・三井むつみ（足立区NPO活動支援センター区民ライター）

「John Butterill's Virtual Photo Walks」が2014年のエミー賞候補に選出
「バーチャルフォトウォークー病人を孤独から救う活動」では2018年に第5回潮アジア太平洋ノンフィクション賞ファイナリスト
「綾音ちゃんの世界旅行 (Ayane Discovering the World)」で、Zoomtopia2019 Innovation Award 最優秀賞を受賞



<https://www.virtualphotowalks.org/>

注目の活動

プログラミングを子どもたちに Coder Dojo (コーダー道場) 足立

Coder Dojoは、アイルランドで始まった子ども向けプログラミング学習支援を行う道場。世界で2千ヶ所以上、日本でも全国200ヶ所以上が定期的に開催されています。

Coder Dojo足立は、小中高生を対象に毎月無料で、オンラインもしくは区内の会場で開催されています。「参加者の半分以上が初めてプログラミングに触れるお子さんのため、全く知識がないお子さん向けにも教材を用意しており、プログラミング経験豊富なメンター（講師）がゼロから指導します」と、メンバーの高野さん。社会で活躍するプログラマーたちに直接教えてもらえるのは中々できない体験ですね。



大自然の音と風景、そして会話が心を癒す。